ベルリンの多文化社会について

問い

①移民の人はベルリンをどんな街だと感じているのか

②移民の人はどのような仕事をしているのか

③ベルリンの多文化社会を体験して考えたこと

リトル・イスタンブール

- クロイツベルク地区やノイケルン地区には
移民、特にトルコ系移民のコミュニティが形成されている

・かつて工場が多く存在し、トルコやギリシャなどから労働者を受け入れた

・近くにベルリンの壁があり、東西の国境沿いにはドイツ人が寄り付かなくなった
・トルコ人街、リトルイスタンブールとして知られる

クロイツベルク地区の様子

トルキッシュマーケットの様子

Give Something Back To Berlin

- 移民、難民、地元の人々をつなぐボランティア団体
- ポーランド、イギリス、ニュージーランド、イタリア出身の人たちが主となって活動をしている

月	火	水	木
・ギター初級 ・ギター上級 ・セッション	・オープンアートスペース ・英語カフェ ・ピアノレッスン ・ヨガレッスン ・ドラムレッスン	・ソーシャルクッキング ・ドイツ語カフェ ・ギターレッスン	・女性専用言語カフェ ・オープンミュージックレッスン

・毎週月曜日～木曜日開催

・午後5時頃から約2時間

・曜日ごとにイベントが決まっている

・ギターやピアノのレッスンには毎回15～20人が参加

・ソーシャルクッキングには毎回20～25人が参加

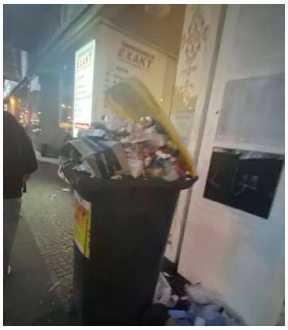
☆オーストラリア、トルコ、カナダ、アフガニスタン、アフリカ、シリア、ロシア、ポーランド、ラトビア、アメリカ、インド、ドイツ、スペインなど様々な国の人たちが参加

インタビューをして

・ベルリンは良い場所だとは言いませんが、私の母国に最も近い場所だと思います。私はいつも何らかの方法で他の人を助けようとしています。　シナンさん

・ベルリンはトルコと比べてあまり良い街とは言えない。でも、クロイツベルクの雰囲気は好きだ。　シューレ

・ベルリンは本当に多様性が見られる街で、クロイツベルクやノイケルンは特にそうです。ベルリンは良い街とは言えないけど、好きなところもある。　アクサ



ノイケルン地区の様子

移民の人の職業

・マーケットで品物を売る、ケバブショップや外国料理屋で働いている

・教育を受け大卒であれば良い仕事を見つけられる

・亡命希望者でドイツ語ができなかったり、卒業資格を持っていない場合はバスの運転手、ウェイトレス、清掃員などのサービス業に就く

まとめ

①ベルリンには多くの移民が暮らしているため、多様性が見られる多文化社会ではあるが、移民の人たちにとってベルリンは必ずしも良い街だとは言えず、多文化「共生」ができているとは言いづらい

②移民は資格や経歴によって職業が異なっている

③私はベルリンの多文化社会を体験し、クロイツベルク地区のボランティア活動のような、誰でも気軽に足を運べて、現地の人や他の移民の人とすぐに交流できる場があることの重要性を感じた。そして、今後の日本でもこのような場が増えてほしいと感じた。また、ベルリンに滞在する中で北ドイツと南ドイツの文化の違いや異文化を受け入れる姿勢の違いも考察したい思いが強くなった。今後の課題としたい。

参考文献

- 岡　裕人（2012年）『忘却に抵抗するドイツー歴史教育から「記憶の文化へ」』第4章　株式会社大月書店
- 浜本隆志・希代真理子（2023年）『ベルリンを知るための52章』第6章　株式会社明石書店
- Give Something Back To Berlin（閲覧日2024年8月4日）

https://gsbtb.org/

・伊藤麻美　「多文化共生のために地域の劇場ができることーベルリン・クロイツベルクBallhaus Naunynstrasseを事例に」

http://web.cla.kobe-u.ac.jp/group/IReC/pdf/4_4_itoh.pdf

（閲覧日　2024年8月4日）